

## 世界に魅了された1週間

2005 世界選手権のトレーニングキャンプで訪れた世界各国の選手に、OLC 東海の高中生は魅了された。

11/6 の大高大会。早々に会場に着き、まずは「第1回全日本トレイル」E権にチャレンジ。すでに高校3年生2人(山倉貴之・加藤峻一)と顧問岡野先生がE権を取得していたので、いつもより慎重に真剣に取り組んだ。そのおかげか、結果は好調。中学3年の伴毅が10位に入りE権を獲得。また「チーム」(上位3名の)としては4位に入る健闘を見せた。

そして次は「パークワールドツアー」観戦。多くの生徒が眼前で世界の選手を見るのは初めて。そこで事前に三河OLCの安齋さんと松澤さんに「注目外国人選手」ガイドを、わざわざOLC東海のために作製していただき、事前に予習した上で観戦。そのガイドのおかげもあって、シモーネ選手などそれぞれ注目選手を見出し、有意義に観戦できた。

最後は世界の選手と2レグ同じコースにチャレンジ。

翌7日は東日本大会。成績は「ライバル」桐朋IKに完敗...。(インターハイに向け好い刺激となったか)

しかし収穫はあった。表彰式後に愛知県協会落合さんや安齋さん松澤さんに仲介してもらって、2日連続優勝したシモーネ選手に、このあと1週間愛知県に滞在する間に東海高校に来てもらえるかを打診。一応検討してもらえるとのこととひとまず安心。ついでにサインをもらって意義ある2日間の締めくくりとなった。



シモーネ選手に来校交渉 ついでにサイン

## トーマス氏講演会実現

しかし翌日、シモーネ選手は練習が忙しく無理との連絡...。代わってスイスチームコーチとして来ている2003WOC ロングチャンピオン・トーマスビューラー氏が話をしてくれることになった。さすがに世界チャンピオ



アツい講義 尾上氏の通訳で判りやすく

ン来校の報は刺激的で、実力テスト週間だったが気分は高揚した。

講演当日は、三河での練習から駆けつけてもらった。通訳などで尾上氏に御協力いただいた。

昨年同じように来校講義してもらった村越氏のようにパソコンを駆使しながら話し始めた世界チャンピオンに、我々はすぐに惹きつけられた。

OLの現代の状況から話は始まり、ご自身が8歳から始めジュニア時代をどう過ごしたかを、現中高生がわかりやすいように回顧説明された。

## 「挫折・壁」はあった...

その中でも印象的だったのが、事前にお渡ししておいた生徒の質問(OLをやめたくなるときは?)に答える形で、「成長期(15-17歳頃)に膝痛でトレーニングができず勝てない時期が続いたが、一つひとつ克服をしていくことでヤル気が出て自分の世界が開けてきた」と言われたところ。また、「トレーニングの確かな助言を得て、結果が出せるようになり、19歳でのJWOC、23歳でのWOCリレーでの活躍が転機



になった」こと。そして「スイスには勝つと大いに褒めてもらえる環境がある」とのこと。

彼の向上心・努力だけでなく周囲の環境の大切さも再認識させられた。表彰式や新聞掲載だけでなく、ジュニアを調子に乗せていく環境作りはOL界の未来にとっても重要だと僭越ながら思う次第である。

## 17歳で週5日トレーニング!?

そしてOLのトレーニングについての質問に対して、「地図読みも大切だが、現在世界で勝とうとしたらスピードは不可欠」と言われた。自己最高(24歳時)は15:00:69/1500m。15分を切れなかったことを悔やんでいらっやっやだったが、「12分台でなくてもいいが世界で16分台では遅すぎる」との言葉にまた世界のすごさを感じた。

そして現在若手スイス選手を指導する立場から、「ジュニア期には様々なスポーツを体験し、いろいろな部位の筋肉を自然につけることが大切」と助言をもらった。また「世界上位に行くなら、17歳で週5回のトレーニング、週4回のランニング機会が望ましい」とも...。気軽にJWOCを目指せなどと口にしていた我々が恥ずかしくなるような世界の現状を聞いた。

最後はスイスチョコと直筆サインカードをそれぞれにいただいた。また最後に感謝の気持ちをこめて贈った「東海魂」Tシャツも喜んでいただけて良かった。OLの実力だけでなく、人柄もさすが世界チャンピオンだと実感した講演だった。



## 2005 スイス JWOC を目指す!

スイスにある70ものクラブチームを基盤とするジュニア代表達には到底及ばないだろうが、OLC東海からも何とか日本の予選を勝ち抜いて来年7月にスイス(日本に似たトレイン)とのことへ行ってもらいたい。帰国際ビューラー氏に「スイスに行く」と宣言した生徒に頼もしさを感じつつ慌しい一日を閉じた。

(大野聡生)